



あさっての方向。

原作 山田J太
監督 桜美かつし
制作 J.C.STAFF

アニメ



■ 明日を飛び越えてあさってに行ったロリ

時間SFといえば夏のイメージが強い。それは、天気や、お祭り、蝉の音などで時間が移り変わる様を一番感じ取れる季節だからかもしれない。

本作『あさっての方向』もそんな夏が舞台の時間に関する作品だ。原作とアニメで別物といえるくらいストーリーが違うが、ここではアニメ版を紹介していきたい。本作では小学生の女の子五百川からだとからだの兄・尋の元カノである野上淑子の年齢が入れ替わり、子供が大人に大人が子供になるという変身を描いている。

実はからだと尋は血が繋がってはいないので、義妹と元カノという刃傷沙汰にも、ラブコメディっぽい内容にもできそうな設定である。しかしながら、本作はそのどちらにも行かない。第一話のラストで変身が描かれた後には丸一話かけて、変身直後の一日を、その次の話では二人の新しい生活を描くというように、変身という非日常後の日常を丁寧に描いている。

日常の描き方で本作がとりわけ優れているのは突然大人の身体になってしまった五百川からだの仕草・振る舞いだ。小学生時は赤ランドセルが似合う小柄な女の子だが、大人の姿は巨乳である。姿が変わってナイスバディになるのは定番だが、本作ではそれを露骨なサービスとして見せるのではなく、階段を上った後の水を飲むシーン（第0話）や、ケーキを作るシーン（第1話）においてさりげなくエロい仕草を見せている。そうした派手ではないが丁寧な仕草を積み重ねることで、キャラクターを魅力的に描いている。

そうした大人となった姿とは裏腹に中身は子供なからだ。彼女は自分のために色々なことを犠牲にしてきた尋に申し訳なさを感じ、早く大人になりたいと思っていたのだ。そんな彼女は尋と淑子の過去を知って自分のせいで二人が別れたことに責任と罪悪感を抱き、家出をして行方不明になる。それをきっかけに、お互いのことを想っていながらも、言葉でいかなかった三人たちの関係が変化してい

く。結末は爽やかで、収まるべきところに綺麗に着地ができている。派手な作品ではないが、作画と音楽のクオリティも高く、見て損はない作品である。【nokky】